

令和5年度 瀬戸内タウンミーティング意見交換要旨（牛窓町公民館）

令和5年10月1日（日曜日）

午前10時～正午

牛窓町公民館 3階大会議室

参加者：男性 9人、女性 2人 合計 11人（事務局4人を除く）
（職員参加者、事務局を除くと男性6人、女性2人 合計8人）

★意見交換要旨★

- ・鹿忍の港から、水位が高くなると、自宅前の畑まで逆流する。鹿忍の大樋門の管理をうまくやってほしい。

（市長）

大樋門は樋守を地元の人をお願いしている状態。樋門を管理している人へ状況を説明し対応するよう建設課に伝える。

- ・自動車がないと生活ができない。市は公共交通の対策をしているが、完全に行き届いていないと感じる。

（市長）

車が乗れないと生活できないというのは、正に言われるとおり。市営バスは徐々に利用者も増えている。今後も利用者が増えるように、引き続ききめ細かく改善できるところは改善していきたい。また、バスよりも利便性の高いタクシーの利用について、乗合タクシーがより緩和される可能性がある。そうなればもう少し安くタクシーを利用できるようになると思うので、そのようなところも見ながら進めてきたい。

高齢になってからの不安を感じて、市外に引っ越す人もいると思う。高齢になっても生活が成り立つ交通手段を、道路と同じように考えていくことが大事だと考えている。

- ・3町の合併は、福祉のまちを長船に、行政のまちを邑久に、牛窓を観光のまちに、ということが当初の目標だったと思うが、牛窓だけ疎外されているように感じる。車や子どもに出会うことが少なく、公園がないことにも驚いた。公園がないということが、「公園は必要がない」ということに通じる気がしてさみしく思う。

（市長）

- ・病院については瀬戸内市民病院ができた。コロナ渦の大変な状況下で重要な役割を果たしたので、市民病院があつてよかったと感じている。岡山市内の大きな病院まで行くのが大変なこともあるので、市内に処方してもらえる病院があるというの

は大事なことで、大きな支えになっている。今後、岡山大学病院などと医療情報を連携して、市民の皆さんの医療情報を NOBORI というスマートフォンアプリで見られるようにしようとしている。診療科目も、今度精神科ができ、今まで対応できなかったところを対応できるように頑張っている。市民病院は、採算性を考慮する民間の病院とは異なり、利益にならないことも本当に必要であれば取り組めることが強みだと思う。この強みを活かせるようにしていきたい。

- ・公園については、牛窓には「出島公園」があるが、市民の皆さんの憩いの場所としての公園があるかといわれると、「出島公園がある」とは言いにくいと思っている。公共のスペースを作っていないといけないというのは市全体の課題であると思う。牛窓にはなくても、邑久に行けば散歩ができる公園がある、というだけでも違ってくると思う。今までの市の土地利用が、農業を守るための土地利用、森林を守るための土地利用はあったが、暮らしやすさを高めるための土地利用という枠組みは残念ながら今までなかった。暮らしのための土地利用を進めていくのが都市計画の役割だと思っている。これから都市計画を導入して、しっかりと将来を見据えて、どんな都市計画が瀬戸内市に合っているかを考えて進めていきたいと思っている。

- ・年齢が上がるにつれて、空いた時間の使い方や社会貢献について考えていたので、商工会議所の隣にビジネス支援センターができることを嬉しく思う。

(市長)

ビジネス支援センターへご期待いただきありがたい。すき間時間をどう使っていくかがポイントになると思っており、週2・3回程、体に負担を少なく働きたい、ボランティア活動したいといった要望はあると思う。市では今年4月から「ゆめワークせとうち無料職業紹介所」を立ち上げている。ゆめワークせとうちを中心として、ビジネス支援センターの中でさらに拡大していけるよう取り組みたい。

企業側は、短期間の業務を提供してくれないケースがある。ここを市から開拓していかないと、今のままではなかなか仕事が出てこない。担当職員を1名配置して、色々な企業に訪問して、フルタイムではなく、短い時間でも求人を募集してくれるよう交渉していきたい。求人を出す側と仕事を求める人の双方が条件に折り合いをつけ組み合わせができるようにしていきたい。